中学保健体育部会

体育分野における授業の効果的な指導法
―― 指導形態や場の工夫 ――

Ⅰ 主題設定の理由

学習指導要領の目標にもある、心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と、運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるべく,昨年度より個に応じた学習体制や,生徒が意欲的に学習に取り組む姿勢を育成していくために「指導形態や場の工夫」についての研究を行ってきた。本年度は球技を柱に,生徒個々が課題を設け,積極的に取り組む為にも,継続して研究することが望ましいと考え本主題を設定した。

Ⅱ 研究の内容

1 研究のねらい

（1）授業実践を通して,効果的な指導法としての指導形態と場の工夫を考える。

（2）先進校の資料や情報交換等の検討などから研究していく。

2 研究の概要

（1）指導形態や場の工夫について,取り組みの先進校や文献等からの資料収集や各校の情報交換をおこなう。

（2）「サッカー」の授業実践を通して,指導形態や場の工夫について考える。

〔 塩山中学校　鶴田　誠司教諭 〕

（3）「バスケットボール」に授業実践を通して、指導形態や場の工夫について考える。

〔 山梨北中学校　志村　勝久教諭 〕

3 授業実践：1

（1）単元名　球技「サッカー」（中学１年生）

（2）授業者　塩山中学校　鶴田　誠司教諭

（3）本時のねらい

・グループ学習やゲームＡを通して、自己やグループの課題を把握し、意欲的に学習できる。

・技能の向上を目指して、励まし合ったり、助言しあいながら学習・準備片付けができる。

・安全に留意して学習することができる。

（4）教材準備

・サッカーコート 1/2 × 3面　・サッカーボール数個
・ゼッケン数枚

（5）場の設定の工夫
・ゲームA・・・コートが狭くタッチ数が限られているため、技能の優位な生徒が長くボールを保持できず、経験の少ない生徒もボールに多くさわれる。
・ゲームB・・・ボールを2個使うため、サイドチェンジ等の視野が広がる。

4 授業実践：2
（1）単元名　球技「バスケットボール」（中学1年生）
（2）授業者　山梨北中学校　志村　勝久教諭
（3）本時のねらい
・2：1の動きから、いかにしてフリーのプレイヤーを生かすことができるか。
・3：3の動きから、個人技能で必要な状況認知や状況判断力を身につけさせる。
・進んでゲームに関わろうとする態度を身につけさせる。
（4）教材準備
・バスケットコート1面　バスケットボール数個
（5）場の設定の工夫
・体育館1面の半分（ハーフコート）を有効に利用する。
・授業内容や時間数経過に応じて学習ノートの活用。

Ⅲ 成果と課題
1 成果
・ 効果的な指導法として「指導形態や場の工夫」を中心に各校のこの一年の実践や情報交換をすることにより大変参考になった。
・ 授業実践から「場」や指導形態を工夫することにより、生徒の動きが確実に変わることを実感できた。
・ 授業規律が確立され、生徒が目的意識を持って活動することができる授業の大切さを共通理解できた。

2 課題
・ 個を生かし、生徒一人ひとりが明確な課題を持って授業に臨むためには、生徒が自らの基礎技能レベルをしっかりと把握する必要がある。さらに教師側の評価基準と評価の内容等,細かな部分までしっかりと生徒個々に伝えなければならない。個や班において,自分たちに合った課題を設けさせることがこれから特に必要になってくる.
・ 授業実践の日程が、体育教科の指導計画に合わない。

〔部　長　　矢澤　恵美子〕